

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	農業振興対策事業			会計	款	項	目	大	小
				01	06	01	03	03	02
政策	05	5節	賑わいと活気に満ちた流山（産業の振興）	主管課	農業振興課				
施策	5-4	多様な方面からの農業の振興		主管課長	安蒜 康志				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	園芸農作物（野菜類）	意図	気象等の外的要因に左右されることなく、安定的で効率的な生産が維持・推進されるようになる。
事業内容	長期安定生産ができるよう、園芸作物生産者に対してビニールハウス等の施設整備や効率化機械の導入を推進する。			
事業開始から現在までの状況変化	本事業の実施により、露地栽培中心の生産体制にハウス栽培が加わるようになり、生産者においては、安定的な生産手段としてビニールハウスが有効という認識が定着している。 また、効率化機械の導入等により、生産性の向上が図られている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	高生産推進事業の対象となった施設の数	31	36	28	基	↑↑↑
②	主要共撰4品目売上額	95,642	127,128	110,086	千円	→→	JA出荷分アサダ、アサダ、ホウレンソウ、エダマメの売上額
③							
④							
⑤							
⑥							
指標で表すことができない定性的な成果	安定的な生産の持続・施設栽培の有効性の認知度の向上						目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）
事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度	◆助成金の交付先は、各種生産組合となっている。 ◆指標に共撰4品目の売上額を設定しているが、作物の品質や供給量は、天候など市場の動向に左右される。 ◆ビニールハウスの新設が生産額の向上に反映されているか否かがわかるデータの把握がなされていない。			
事務事業の総コスト(a=b+c)	9,748,256	12,538,545	12,555,508				
事業費(b)(円)	7,688,756	10,524,945	10,577,908				
うち一般財源	7,612,512	10,448,113	10,487,650				
職員給与と費(c)(円)	2,059,500	2,013,600	1,977,600				
人役・職員(人)	0.30	0.30	0.30				
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	III 要改善（事業は継続するが、更なる改善が必要）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	各関係機関の会議や現場で、農業者の意見や要望を把握するよう努める。	③取組における課題(Check)	農業者からの農業政策や補助金等に対する意見や要望等の把握を行う。
②H30に実施した取組(Do)	農業用廃プラスチックの回収を、年2回実施している。	④課題に対する今後(H31~)の改善計画(Action)	各関係機関の会議や現場で、農業者の意見や要望を把握するよう努める。